

# 読書

## 県図書館に行こう

こんな情報待っている

桜林仁(さくらばやし)の蔵書や研究書が寄贈された。ひとし(氏)(一九一六―一九五五)は横浜市出身。音楽療法とは、音楽の六三(昭和三十七)年に日本人として初めて音楽療法に関する書籍を著し、海外の研究書を翻訳するなど音楽療法界の先

患者が音楽を聞いて生き生きと表情を動かすシーンなどはテレビで報道されて、一般にも知られるようになった。

音楽療法の研究には、医学、心理学、芸術などの学術研究と、実践活動が不可欠で、そのため当

駆者として活躍した。日本初の公立音楽療法研究所が九四(平成六)年に岐阜県に開設される際にその中心となって働き、翌年に死去。九六年に遺族より、桜林氏が最後まで情熱を傾けた研究所のある岐阜県にと、氏

症患者在音楽を聞いて生き生きと表情を動かすシーンなどはテレビで報道されて、一般にも知られるようになった。

音楽療法の研究には、医学、心理学、芸術などの学術研究と、実践活動が不可欠で、そのため当

## 音楽療法の先駆資料を集積

桜林文庫



文庫の和書九百四十八冊、洋書五百十九冊のほとんどが、それらの関係書で占められている。

音楽療法草創期の貴重な資料や海外の文献も含まれており、日本における音楽療法史を研究する上で欠かせない資料群。「音楽心理学年報」(七二―八四年)と「音楽療法研究年報」(七二―八三年)は特に、日本における初期音楽療法の動向を知る上で貴重。

また、県音楽療法研究所長の門間陽子氏によってまとめられた「桜林仁著作集」は、さまざまな雑誌に発表された桜林氏の論文を集めたもので、第二次世界大戦終了後の氏の研究対象の変遷や音楽療法に取り組む様子をつかうことができる。

わが国の音楽療法を研究する上で貴重な資料がそろった「桜林文庫」県図書館

BOOK REVIEW